■ Culture

石ノ森章太郎「新装版マンガ日本の歴史2　倭の五王と大和王権」（中公文庫）©石森プロ　磐井は新羅と連携してヤマト王権の軍と戦う

九州の豪族 厳しい選択

磐井を盟主と仰ぐ北部九州の豪族たちは、磐井に付くか、ヤマト王権に従うか、厳しい選択を迫られた。全国有数の装飾古墳で、6世紀前半に築造された特別史跡・王塚古墳（福岡県桂川町）の被葬者もその一人だったのかもしれない。

一帯は福岡県内陸部（筑豊地方）の交通の要衝で、被葬者は国内外で活発に交流した有力者と目される。古墳にはその痕跡が残っており、石室に描かれた盾の図柄は岩戸山古墳の石製表飾の盾と酷似し、磐井との交流を物語る。

一方、九州大の辻田淳一郎教授（考古学）によると、副葬品の金銅製馬具や国内製の大型鏡は、ヤマト王権との密接な政治的関係を示し、石室の形状は朝鮮半島南部・栄山江流域の古墳と似ており、深いつながりが見て取れる。

乱の後、この地にはヤマト王権の拠点である屯倉が置かれた。王塚古墳近くの天神山古墳（6世紀中、後期）は屯倉を管理する地元有力者の墓と目されている。このため辻田教授は、「王塚古墳の被葬者もヤマト王権寄りで、磐井側には積極的に加担しなかったのではないか」と推測する。

＊ 歴史研究が深まるにつれて日本史のトピックは見直されています。「日本史アップデート」では、研究成果を反映した最新説を、広く知られた従来説と比較しながら紹介します。「世界史アップデート」と隔週で掲載の予定です。